

# 茅ボッチのある里山風景を残し 草原の草花を守る

キラリ輝く  
**輝き人**  
Vol. 8  
日光に生きる人



## かや 日光茅ボッチの会 代表：飯村孝文さん

**今** 月は、栗山地域の土呂部集落で活動している「日光茅ボッチの会」を紹介します。お話は、代表の飯村孝文さんに伺いました。

### 茅ボッチって何ですか？

まず、「茅」とはススキなどのイネ科の植物の総称です。この茅を乾燥させるために円錐状に立てかけたものを茅ボッチといいます。乾燥した茅ボッチは、冬場の牛の飼料や敷草に利用されてきました。茅ボッチを立てる草原のことを茅場といい、秋には茅ボッチが立ち並ぶ美しい風景が見られます。また、茅場は長期にわたり人の手で管理されてきたため、生物多様性に富んだ草原環境が維持され、貴重な草花の宝庫になっています。

### 活動のきっかけは？

今から12年くらい前に、土呂部地区に江戸時代から維持されてきた茅場があることを知りました。会の立ち上げ当時には、すでに使われなくなっており、誰かが残していかなければ消えていってしまうという危機感を感じたことが活動のきっかけです。

じたことが活動のきっかけです。**会について教えてください**

日光茅ボッチの会は、茅ボッチのある里山風景と茅場に咲く貴重な草花を守ることを目的に、平成25年11月、16名の会員で発足しました。現在は29名で活動しており、埼玉県から来ている人もいます。かつて、土呂部の茅場は24ヘクタールもありました。現在は6ヘクタールに減り、そのうちの5ヘクタールを保全、管理しています。茅ボッチは10月ごろから作りはじめます。乾燥させた茅は、上栗山の牧場で飼育されている牛の飼料に利用してもらいます。

### 土呂部地区への思いについて教えてください

土呂部は今、若い人たちが減って急速に高齢化が進んでいます。活動を通して、土呂部の人が元気になってくれればうれしいです。土呂部は絶滅危惧種を含む草原性の植物が豊富で、県内で唯一のミスバシヨウ自生地もあります。潜在的な魅力が多い場所なので、多くの人に知って欲しいです。**活動していて印象的だったことを教えてください**



茅ボッチ作りの作業風景

### 今後の目標について教えてください

今後は管理する範囲を広げ、植物観察会やさまざまなイベント開催を通して、多くの方々に土呂部や栗山地域の魅力を紹介したいです。

### 最後に、茅ボッチの魅力について教えてください

昔は、今市地域や三依地区などでも茅ボッチが見られたそうです。当時を知る方にとっては、きつと懐かしく感じる風景だと思います。また、若い方にとっても、土呂部に残る山村の原風景は新鮮に映ると思います。ぜひ土呂部地区に遊びに来て欲しいです。

### インタビューを終えて……

取材中、土呂部地区の自然の魅力を熱く語る飯村さん。この土地に掛けた、強い情熱を感じました。